

# 学園だより

和歌山工業高等専門学校

第110号

令和5年3月



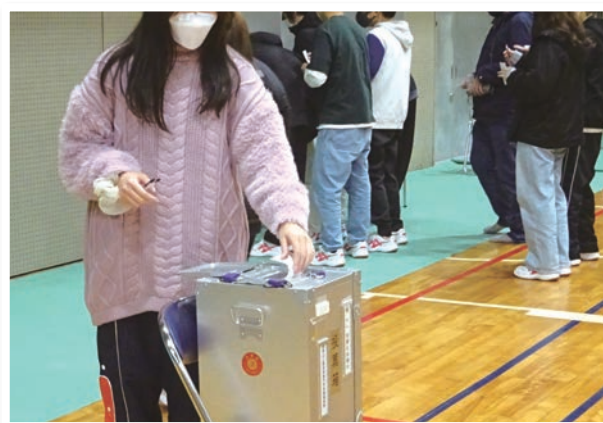
学生会へ厚生労働大臣感謝状



避難訓練



高専祭



選挙講座

## 目次

夢や希望を持って果敢に挑もう .....	校	長	北風幸一	3
オールマイティーでなくてもよい .....	副校	長	辻原治	4
<b>学生会長あいさつ</b>				
学生会の本質 .....	知能機械工学科	4年	中浴大輔	5
<b>和高専の思い出</b>				
猛勉強の1年間、最高の2年間 .....	知能機械工学科	5年	生駒凌征	6
僕の五年間を振り返って .....	電気情報工学科	5年	坂口嵩真	7
一週間遅れの新入生 .....	生物応用化学科	5年	橋爪玲那	8
5年間での成長 .....	環境都市工学科	5年	田中勇摩	9
進路を迷うみなさんへ .....	メカトロニクス工学専攻	2年	沢田基	10
充実した2年間 .....	エコシステム工学専攻	2年	東さくら	11
<b>全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト</b>				
シングル部門 .....	電気情報工学科	4年	山田歩佑	12
チーム部門 .....	知能機械工学科	4年	瀧川悠羽	
	知能機械工学科	4年	津村百香	
	電気情報工学科	4年	岸華音	
<b>全国高等専門学校ロボットコンテスト</b>				
全国大会を終えて .....	知能機械工学科	2年	脇悠斗	13
<b>柑紀寮より</b> .....				14
<b>令和4年度 進路状況</b> .....				16
<b>令和5年度 行事計画</b> .....				17

## 夢や希望を持って果敢に挑もう



校長  
北風 幸一

たとえ生活の糧を得るためだけの仕事であるとしても、できれば、その仕事をやりたいと思えるようなものにしたいいものです。やりたくないことばかりをしなくてもすむ方法の一つとしては、やりたいと思うことができる時間を無理にでも捻出して、やりたいことに割く時間をできる限り増やすという方法があります。その際には、やらなければならないことを厭わずに、むしろ率先して引き受けて確実にこなし、水準以上の成果をあげるようにもすべきでしょう。そのような姿勢で臨んでいれば、やる必要性は高くても重要度が低いことは、指示されたことだけをする者に割り振られやすくなり、やりたいことに集中して取り組んでいる者には割り振られにくくなります。もちろん、本来の仕事の範囲内であることや、周りの関係者の理解が得られることなど、一定の制約はあります。けれども、やるべきことが提示されるのを受動的に待ち、言われたことだけを漫然とやるよりも、やりたいと思えることを主体的に見つけ出し、率先してそれに取り組むようにした方が、圧倒的に楽しく仕事に取り組めるはずですよ。

ただ、この方法をとるためには、先ずはやりたいことをしっかりと自覚している必要があります。やりたいことがなければ、この方法は取りようがありません。その一方で、極端な言い方をすれば、高い夢や希望を持ち、その実現に必要な目標があり、その達成のために何をすればよいか分かっていけば、その夢や希望はもう半分は叶えられたようなものです。やりたいと思えることや、その実現に結びつくことであれば、どんなに困難なことであっても前向きに取り組めるはずだからです。やりたいことがあるということは、それくらい重要なことであるとともに、自覚しにくいものでもあります。ですから、やりたいことが直にははっきりさせられないからといって落胆する必要もありません。もがき苦しみながら徐々につかみ取っていけば良いのです。また、明確

な目標を持つことができたとしても、それが達成できそうになった時には、希望や夢により近づけるような目標に更新していく必要もあります。目標とは、生き物のように変わり続け、その存在が意識され続けてこそ、それを持つことの強みを最大限に活かすことができるものだからです。

このように考えると、高い夢や希望に思いを致しながら、それを実現するための方策について考える機会を定期的に持つということは、実は大変に重要なことであると言えます。また、その機会を学生に提供することとなるキャリア教育は、単なる職業指導や進路指導にとどめるべきではありませんし、実現が見込めない夢物語を語らせるだけのものにすべきでもありません。将来的な展望の下に極めて現実的な目標を設定し、その実現のために何をすべきであるかを真剣に考えさせる教育とすべきだと思います。自分にどのような適性があり、現時点でどの程度の実力が身についているのかを把握させるようにもすべきでしょう。そして、将来のキャリアやその実現方法について定期的に考えることの重要性は、進路について検討している学生だけでなく、既に進路が決まっている学生や卒業生にも、さらには、こうした学生や卒業生を支える教職員にも当てはまることではないかと思います。

また、実際に行動に移す際には、失敗を恐れずに踏み出す勇気を持つことも重要となります。家具販売のイケアを創業して一代で世界の最大手に育て上げたイングヴァル・カンブラードは、「何もしなければ失敗することはないし、多くの失敗をしなければ仕事をしていないことと同じだ」という言葉を残しています。自己啓発の父と呼ばれる心理学者のアルフレッド・アドラーも、「人は失敗を通じてしか学ばない」と言っています。失敗するとあらかじめ分かっていることを取返すべきとまでは言いませんが、失敗や間違いを恐れて何もしなければ、そのこと自体が最も大きな失敗であり間違いであるとも言えます。やらなかったことを後悔することはあっても、やったことを後悔することはありません。また、たとえ失敗したとしても、それを実現しようとする過程で得られた経験と知識は、その後の人生にとって必ず大きな財産となるはずですよ。氣力と体力が続く限り、より良いと思えること、やりたいと思うことには、万難を排して果敢に挑むようにしたいものです。

## オールマイティーでなくてもよい



副校長  
辻原 治

先日、橋に関する記事を読むことができました。皆さん、日本最古の鉄製の橋はいつ頃できたか知っていますか。1868年（明治元年）に長崎に架けられた「くろがね橋」です。明治の文明開化の始まりとともに架けられたようです。ちなみに、現存する世界最古の鉄の橋は「アイアンブリッジ」です。イギリスで1779年に架けられました。産業革命で、鉄鋼業が盛んになった頃です。一方、日本初のコンクリート橋は鉄橋の建設から遅れること35年、1903年（明治36年）に「日ノ岡11号橋」が琵琶湖疏水に架けられました。これは、鉄筋コンクリート橋です。鉄筋コンクリートって何？という人がいるかもしれないので、簡単に説明しておきます。鉄は引張りに強いけれど、圧縮には弱いという性質があります。逆に、コンクリートは圧縮には強いが引張りに弱いという性質があります。このような真逆の性質の材料を組み合わせることで大きな効果を上げることができます。鉄筋コンクリートは、まさにそれです。鉄とコンクリートは、それぞれに別々に開発・改良がなされてきましたが、互いの長所を活かし、短所を補い合うことで、現在でも建設材料の中心として使われています。

「何の話？」、「講義は教室です！」という声が聞こえてきそうですが、ついでに、もう少しお付き合いください。最近、防災教育の研究をしています。あるきっかけから、和歌山県土砂災害啓発センター（那智勝浦町、以下では啓発センターと省略します）という組織と共同研究をすることになりました。内容は、簡単に言うと、小学生を対象としてRPG（ロールプレイングゲーム）形式の防災教材を作って、これを使ってもらおう、というものです。ゲームのシナリオを一緒に考え、啓発センターが資料を提供し、本校の学生がゲー

ムを作りました。作った以上は、使ってもらわないと意味がありません。そこは、私たちが弱いところで、日ごろ小学校とのお付き合いがありません。しかし、啓発センターはいろいろな小学校と付き合いがあることから、多くの小学校で実践でき、ゲームの効果も評価できました。また、改善点をフィードバックすることもできました。これも、啓発センターの強みである豊富な資料の提供と作った教材の展開力、当方の強みである開発力と評価が、コラボレーションによって当初考えていた以上の成果につながった例です。

そろそろ、本題に入ります。皆さんは、小さいころから「文武両道」と言われ、勉強、スポーツ、芸術、等々いろいろな分野で、できれば卓抜した成績や成果が残せるように努力してきたのではないのでしょうか。とても大切なことだと思います。中にはバランスよくできている人もいるでしょう。素晴らしいです。しかし、人間ですから、強いところもあれば弱いところもあります。長所もあれば短所もあります。当たり前です。皆さんの多くは、高専を卒業すると就職します。自分の良いところや強いところを見つけて、それにある程度の時間を割き、伸ばすことができるのは、学生時代かもしれません。少し尖ったところを持っておくと、将来何かのきっかけでチャンスに恵まれときに、力を発揮できると思います。足らずは補い合えばよい。



# 学生会長あいさつ



## 学生会の本質

知能機械工学科 4年  
中 浴 大 輔

1に「労働」、2に「労働」、3に「労働」と学生会長になってからよく頭に浮かんだ言葉です。特に体育大会や高専祭近くは頻繁でした。

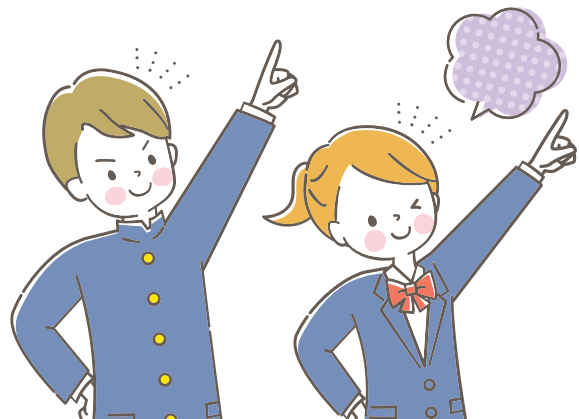
これを読んでいる学生会員以外の学生は学生会が何をしているか知らない方が過半数だと思います。学生会は主に年度明けからクラブ紹介、体育大会、高専祭と主に学生会行事をスムーズかつ楽しくできるように日々頑張っています。例を挙げると、体育大会ではパンフレットの作成やドリンクの発注、ルールの確認などがあります。ドリンクの発注では、外部との連絡もありミスできないものもあります。これを聞いて学生会に入りたいと思いますか？現状はこのような環境ですが、次の学生会長候補は、この問題を解決するべく学生会をより良い環境で、明るい雰囲気にしてくれると思います。彼は私とは違い学生会員のことをとても大切に思い、仕事の負担が大きくなると古い制度をバツサリ撤廃するなど負担のかからないよう心がけていました。きっと学園だよりが発行される時には彼は学生会長として承認されているでしょう。

反対に私は、古い制度をそのままに新しい制度の追加に尽力しました。私がこの一年間、学生会長を務めてから学校に大きな影響をもたらしたとは考えにくいですが、少なくとも次の学生会長にバトンを渡す準備は出来たと感じています。私が今この学園だよりを書いている時と去年の4月上旬と比べると自分自身とても変わったと思います。4月上旬は、この学校を暴いて学校全体がより良い環境にしようと考えていましたが、年間を通して行事が多くなかなか大それたことは出来ませんでした。来年度は、学生会のOBとしてやり残したことをしたいと思います。

昨年度の冬季学生総会時に私は学生会長として

当選しましたが、私は学生会長の当選に値する人間だったでしょうか？私がなぜ会長に立候補したかと言われれば1つは前回の選挙の時、放送でお伝えしていますが、学びの共同体をこの学校に取り入れること、2つ目は学生会員からの消去法です。会長という立場に低学年のころ少し興味はありましたが、上で書いたように学生会は正直すごく環境が悪いです。学年が上がるにつれどんどんやりたくないという感情が大きくなり、会長になりたいという気持ちは風化されました。皆さんが望んでいるように体育大会を2回実施できる環境があれば私も実施したいと考えており、会議の議題に1度上げましたが却下され、今の環境下からすると不可能となりました。この状況で皆さんは軽々、体育大会を2回したいといえますか？学生会はクソと軽々しく言わないでいただきたいです。

例年出馬する会長が一人のみとなりますので競争率がなく私としてはあまり面白味に欠けます。学校を良くしたいと思う学生や今の学生便覧に不満があり自ら変えたいと思う学生がいればぜひ学生会に入って会長の席を狙って欲しいです。



## 和高専の思い出



### 猛勉強の1年間、 最高の2年間

知能機械工学科5年  
生 駒 凌 征

僕は工業高校から4年次編入制度を活用し、2年前に和歌山高専へ入学しました。4年次編入制度とは、高校3年間の課程を修了した後、高専の4年生へ編入する制度のことです。

僕は高校2年生の時、学校で学ぶ工業分野を楽しく感じ、もっと深く学びたいと進路を進学に決定しました。その後学習環境や、自分が特に学びたいと感じる分野・研究内容とが合致していたため、志望校を和歌山高専へと決定しました。高校3年生の初夏に編入試験に合格することが出来、和歌山高専への編入学が決まりました。しかし、そこから高専の実態を知り、追い込まれる日々が始まりました。

編入試験合格後しばらくして、僕の耳にとある情報が入ってきました。そう、それは「高専は留年者が多い」という情報でした。それを聞いた直後に、僕が通っていた工業高校と和歌山高専では20以上の偏差値が離れていたことを思い出しました。高専の1～3年生分のシラバスが丸々欠如している僕が現役の高専生に劣っているという事は、僕にでも瞬時に理解出来たため、編入学後に和歌山高専から叩きのめされるのを防ぐため、そこから編入試験勉強以上の猛勉強を行いました。

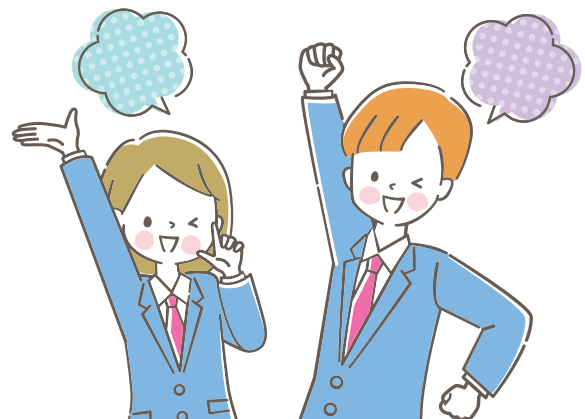
高専のシラバスを見ると、数学の進行速度が当時の僕基準だと異次元であり、シラバス内の単語ですら理解不能だったため、数学の基礎知識を身につけました。プログラミングの経験も一切無かったため、高専の先生から頂いたテキストや工業高校の先生のお力添えをいただきながら勉強をしました。この時が、僕の人生の中で一番勉強に勤しんだ期間だと自負しています。

そうこうするうち迎えた高専生活。僕は寮生であったため、「生きて実家に帰れるのだろうか」という絶望の感情で教室の席に座っていた直後、

僕はクラスメイトのあたたかさに感動しました。僕が高専生活に不安を抱いているのを察して、クラスのほとんどの子が、僕に対して柔らかに話しかけてくれました。高専生活で一番不安に感じていた定期試験でも、僕にでも理解できるよう分かりやすく教えてくれたり、勉強会を開いてくれたりと、正直このクラスメイトと出会わなければ僕は留年していたかもしれないと思うほど、本当にあたたかく接してくれました。勉強だけでなく遊びにも誘ってくれて、カラオケやボウリング、ドライブなどに行ったことは僕の高専生活での思い出のひとつです。そのおかげで、僕は約ひと月でクラスに馴染むことが出来、約半年後の高専祭では女装をするほどまでに自分自身をさらけ出すことが出来ました。

僕が、和歌山高専へ編入学してからの2年間で学んだことは、「人との出会いの大切さ」と「感謝の気持ち」です。僕が高専の先生や学生の方々と出会わなければ、今の僕はなかったかもしれません。振り返れば、和歌山高専での2年間は楽しいことしかありませんでした。ですから、この出会いや思い出をくださった方々への感謝の気持ちが大切だとこの2年間で感じ、学ぶことが出来ました。

この2年間、高専に関して右も左も分からない僕に優しく接し、遊んでくれて本当にありがとうございました。和歌山高専最高！！！！！！





## 僕の五年間を 振り返って

電気情報工学科 5年  
坂口 高真

僕が和歌山高専に入学してもうすぐ五年が経とうとしている。僕の五年間は思い返すとあっという間だった。楽しかった。みたいな漠然とした形でしか思い出せないの、とりあえず一年生から順番に思い出を振り返っていこう。

まず、入学したてで初心な一年生。僕の中で、一番記憶に残っているのは、高専祭のクラス皆でした劇だ。この劇、結果から言うと一年生の中で優勝したのだが、内容は劇とっていいのか中々にグレーなものだった。劇自体は実際3匹の子豚をクラスの皆で協力して演じた。面白いのはここからで、劇が終わった後、当時流行していたTWICEのTTダンスをエンディングとして披露した。ありがちなほのほのとした劇から、ガチで踊るといふ落差が僕の中では面白かった。いい思い出。ちなみに僕は踊っていない。

少し慣れてきた二年生。寮生活にも慣れてきたのか、パジャマで登校する子も現れたりした。あの方向性は間違っていたと思う。二年生の時は課外学習やわかやま学の一環で学外に行くことが多かった。課外学習では県内企業に何う前の通り道で円月島、白良浜に寄った。白良浜では、砂の上で相撲や砂を丸めて投げたり一発ギャグをしたり、とことん遊んだ記憶がある。中には服が海水で濡れている子や、砂だらけの子も居た。企業見学では、会社の成り立ちなどを聞かせていただいた。皆、遊び疲れているはずなのに熱心に聞いていた。

わかやま学でのお気に入りの写真を置いておく。フェンス一つでここまで面白くできるのは



才能だと思う。強く生きて欲しい。こういう馬鹿みたいなことで笑えることが少なくなると思うと歳を重ね、卒業するということはとても寂しく感じる。

さて、気を取り直して三年生。三年生の始まりは、新型コロナウイルスによる影響でオンライン授業が行われた。最初のオンライン授業で、戸惑うこともたくさんあった。唯一良かったことは休憩時間に友達とPCゲームができる事だった。そんなオンライン授業が終わり、学校が始まった。コロナの影響もあり、全寮制では無い三年生は寮にいる子がたくさん減ってしまった。寂しかった。おまけに、当時の3Bは柑紀寮の最上層に住むことになった。まず、荷物搬入で寮した。五階に住むという事の重大さを。それから、毎日登下校やお風呂、ご飯の度に階段を上り下りした。ちょっとは体力がついたと前向きに考えたい。

四年生は、コロナの影響で三年生の時に開催されていなかった一年越しの高専祭が学内のみで開催された。この年の高専祭ではクラス企画としてカジノを開催し、クラス企画人気投票で一位を取ることができた。いいい。

五年生の最初は色々ありすぎたが、最後の体育祭でのクラス対抗リレーではクラスの子が最高の思い出を作ってくれた。僕らのクラスは、芳しい成績を残すことは少なかったが、クラスの皆でスポーツをするのはとっても楽しかった。



ここまで、五年間を僕の記憶のみを頼りに振り返ってきた。写真フォルダを見ながら思い出していると、写真が面白かったり、懐かしい気持ちに浸ったり、全然手が動かなくて、ここまで書くのに中々な時間を要したが、書き上げることができて良かった。安心。改めて振り返ると、僕の和高専での五年間はすごく充実していた。僕の和高専での五年間に関わってくれたすべての人へ感謝します。ありがとうございました。



## 一週間遅れの新入生

生物応用化学科 5年  
橋爪 玲那

入学式当日の朝、私に悲劇が起こった。高専の入学式といえば、新入生は皆中学校の制服を着て出席する。当然私もその一人であり、朝から髪を結び、着慣れたセーラー服に袖を通して準備をしていた。高専では寮生活も始まるため、ワクワクと胸を躍らせていたところ、突然、私は体調に違和感を覚えた。

「なんか、しんどい。」

頭痛と倦怠感に見舞われ、熱を測ると明らかに平熱より高かった。熱を自覚した途端、急にしんどさが増したような気がして、私はパジャマに着替えた。そんな私の状態を見て、母は急いで私を病院へ連れて行き、診断結果が出た。

「インフルエンザです。」

母と私は一瞬目を丸くしたが、その言葉に深く納得した。入学式は四月、普通ならインフルエンザの流行時期からは少しずれており、別の病気を疑う人の方が多いただろう。実は、数日前に私と一緒に遊んだ友達が軒並みインフルエンザにかかっており、病名を聞いたときには、ついに私もかかってしまったか、という感じだった。それから、私は家に戻り、入学式の期待と不安を忘れるかのように眠りに落ちた。

翌日目が覚めると、昨日までの症状が嘘だったかのように、体調は良くなっていた。しかし、体調が良くなったからと言って、学校に行けないのが、このウイルスの厄介なところである。熱が下がっても一週間は自宅待機しなければならず、この一週間が私にとっては地獄だった。同じ新入生達は私が休んでいる間に、新たな友達を作り、新たな環境で過ごしていると思うと、なんともいえない虚無感に襲われた。しかし、こう感じていたのは私一人ではなかった。それは、共に寮生活を行う私の同室学生である。当時のことを彼女に聞いたところ、私が自宅待機しているため、二人部屋なのに、一週間は一人きりで過ごさなければな

らず、周りの子は同室同士で行動するため、不安や孤独を感じていたようだ。お互いまだ顔も性格も知らない状態で、不安な一週間が過ぎていった。

そして、やっと私は一週間遅れで高専に入学した。寮に入ると多くの先輩や同級生から、「インフルエンザの子」として認識されており、名前を覚えてもらうのに、そう時間はかからなかった。また、同室の子とは気がついたときには打ち解けており、どんな経緯で仲良くなったのかなどははっきりとは覚えておらず、私と彼女の不安はいつの間にか消えていた。そんな、不安なまま出会った私達だったが、今では私の親友である。

五年という長い月日を高専で過ごし、勉強だけでなく、共同生活を送る上での責任感や自立心など人として大切なことを学べたと思っている。卒業が間近に迫っている今、心から願っていることは、近年の流行病、新型コロナウイルスにかからず、無事卒業式を終えることだ。







## 5年間での成長

環境都市工学科5年  
田中 勇 摩

中学生の私は、自主勉強をしたことがありませんでした。テスト勉強を一切しないので、悪い点数が当たり前。特に秀でた特技もなく、自分に自信がない性格でした。そのため、体験入学で和歌山高専に受かったその日から、私の目標は「何とか卒業をする」でした。

入学からしばらくたって、私はどうしても授業以外で勉強ができませんでした。何とか授業中の演習で乗り切っていましたが、留年の危機は迫るばかりです。転機は2年生の後期でした。テストで100点が取れたのです。クラス平均も高いテストでしたが、時間ギリギリまで粘って答えを導いた問題が正解していて、とても嬉しかったのを覚えています。なんだ、私も頑張ったらできるじゃないか。そう思った私は、かなり調子に乗りました。3年生に上がると、私は早速、一日の理想のスケジュールを作成しました。自分のすべき行動を可視化することで、無駄に過ごす時間が少し減りました。また、勉強法や集中法についても色々調べ、できるものから実践しました。特におすすめの勉強法を紹介すると、「ポモドーロ・テクニック」というものがあります。これは、「25分勉強+5分休憩」というサイクルを繰り返す方法なのですが、はまる人にはバッチリはまると思うので、ぜひ検索してみてください。元々の勉強量がゼロだったこともあり、成績はどんどん向上しました。4年生の後期になると、ついに平均点90点という好成績を収めることができ、今まで成績をひた隠しにしていた私も、今回ばかりは友人に自慢してしまいました。友人の平均点は92点でした。入学時、無事に卒業さえできればと考えていた私が、こんなに好成績を収めるようになるとは、人生何が起きるかわかりませんね。

勉強を頑張る中で、スケジュールの作成は勉強

以外にも大きな効果がありました。例えば「朝6時に起きる」というスケジュールに沿って動けたなら、それだけで「成功体験」を積むことができるのです。スケジュールがないと当たり前の行動でも、時間通りにご飯を食べた、歯磨きをした。これらが「成功体験」として体に刻み込まれます。人が自信をつけるには、成功体験を多く積むのが最も手っ取り早いと私は思っています。かといって、小さな目標を立てるというのも案外面倒なもの。そこで、試しに理想のスケジュールの作成を考えたのです。ここで大事なことは、あくまで「理想の」スケジュールであるということ。「出来たらラッキー」くらいの気持ちで行うのが一番です。私は気楽に、気まぐれにスケジュールに従った結果、地道にたくさんの自信を得ることができました。気づけば何かに挑戦したいという意欲が昔に比べて沢山あるような気がします。

高専での5年間は、とにかく自分の成長を感じる5年間でした。勉強だけでなく、人としての在り方や考え方、価値観など、自分の軸がこの5年間でどんどん定まってきたのが分かります。そして、成長するにしたがって、自分が多くの人に支えられていることにも気づきます。家族や友人、先生だけでなく、寮事務や食堂、学生課の方々など、その他さまざまな人にお世話になりました。特に、友人の支えがなければ、絶対に卒業できなかったと思います。この場を借りてお礼申し上げます。皆様のおかげで、私は充実した5年間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。4月から私は社会人として働きます。不条理に感じることもたくさんあるかもしれませんが、それでも、周りへの感謝を常に忘れず、高専で学んだことを活かして、これからも成長して過ごしていきたいと思っています。



## 進路を迷う みなさんへ

専攻科

メカトロニクス工学専攻2年

沢田 基

本科の5年間であなたは何を学びましたか。何かやり遂げることが出来た人もいれば、私のように何もできなかった人もいるでしょう。進路を決め旅立つ先輩の背中を見送り、人生の大きな岐路に立つ皆さんの中に、専攻科志望の方もきっといらっしゃると思います。そんなあなたに、専攻科をフル活用するためのアドバイスがあります。

1. なぜ進学を選んだのか。ただ専攻科に入学するだけでは、本科の延長でしかありません。進学を選んだのであれば、もう1段階上げるため行動しましょう。専攻科では、授業ではなく研究がメインとなり、休日も増えます。浪費せず、資格やTOEIC等なんでもいいので、何か実績を残しましょう。また、高専では本科を含めると最長4年間を研究に費やすことが出来ます。そのため、大学に比べ学会発表など学外発表の場がとても多いです。積極的に参加しましょう。もちろん実績にもなり、プレゼンテーション力や度胸、資料作成能力など、社会人のスタートラインに立つために必要なスキルが身につきます。

2. なぜ専攻科を選んだのか。専攻科での授業は本科に比べ、より複雑かつ専門的です。ですが、これは大学に編入したって同じです。むしろ大学の方が、高価な設備や新しい出会いがあるでしょう。では、なにが強みか。それは7年かけて築いた人間関係です。家族のほかに、自分と長期間過ごした存在がそばに居ることは大切なことだと思います。7年を経ても互いを理解し、尊重し合う関係は先生や友人ともにとても心強く、学生生活をより良いものにしてくれました。私の場合、学業面では、友人と改善点を出し合い、切磋琢磨することで英語の成績を飛躍的に向上させることが出来ました。また、先生方に気軽に質問できる環境があり、自分の苦手を把握してくれるため、効

率的に勉学に励むことができます。就職活動では、特に自己分析において非常に頼りになります。自分では知りえない長所や短所を互いにつけ合い、自分を客観視することで、適した職種の選定、深みのある自己PRを行うことが出来ました。このように、授業での質問等は勿論、就職活動において大きなアドバンテージになります。ですが、7年と言う教育課程ゆえ、他の教育機関と比べ人間関係が狭まりがちなので、アルバイトや課外活動などで交友関係を積極的に広げましょう。

3. 将来、どうありたいか。専攻科での生活をより豊かなものにしたいのであれば、本科と同じ気持ちで入学しても意味がありません。問いかけた質問の答えを探しながら、主体性を持ってたくさん経験を積んでください。企業の高専に対する評価は非常に高く、サポートも手厚いので就職活動を有利に進めることが出来ます。形に残る実績を積み、専攻科に進学して良かった、と自信をもって言えるように過ごしてください。

まだ社会人のタマゴである私ですが、これからも友人を大切に、周囲の意見に耳を傾けながらも、自分の夢や信念を決して曲げない、技術者の原点を決して見失わないよう努力するつもりです。専攻科を志望する人、そうでない人も、後悔しないように、頑張ってください。





## 充実した2年間

専攻科  
エコシステム工学専攻2年  
東 さくら

本科を合わせると7年間という長い高専生活が終わろうとしている今、専攻科で過ごした2年間を振り返ると様々なことに悩み、経験した充実した2年間だったと思います。

最も悩んだことは、やはり進路です。専攻科1年生にあがったころから就職か進学かとぼんやりと意識し始めました。大学へ進学した友人や就職した友人、両親、研究室の先生等、多方面から情報を集め、それだけでは決心できなかったのが企業および大学へ1週間ほどインターンシップに行かせていただき、さらに県内企業へ企業訪問という形でお話を伺いました。自分なりに専攻科卒で就職すること、大学院へ進学してから就職することの利点・欠点をまとめ、夏の終わりには就職することを決めました。高専へ入学したときから将来は和歌山県の企業で就職すること、専攻科に進学したときには化学系の企業へ就職することを決めていたこともあり、就職先の候補を探すのはそれほど困りませんでした。優柔不断な私に付き合ってくれた先生方および友人には非常に感謝しています。

専攻科生になると、一日のほとんどを研究室で過ごし、研究活動を行うことになります。研究活動と一言で言っても、実験はもちろんのこと、学会発表およびその準備、論文の執筆、論文や本を読んで情報収集、研究室活動の日程調整・・・と多方面にわたります。それらを授業の課題と並行して行うので大変でした。一度病んでしまって研究室へ行けなくなったこともありましたが、それも今となってはよい思い出ですし、実験がうまくいかなくても「つらい思いをしているということは、自分が成長するチャンスなんだ。自分なりに頑張ってみよう！」と思えるメンタルを手に入れることができました。

研究活動はつらいことばかりではありません。

特に楽しかったことは、遅くまで残った人だけでラーメンを食べに行ったりしたこと、学会発表をしに県外へ行ったことです。調子が悪い測定装置の修理をしていたり、学会発表用の準備をしていたりすると、集中していて知らず知らずのうちに8時を回っていたことが時々あります。そんな時、同じように遅くまで残っていた研究室メンバーとラーメンを食べに行きました。学会発表は、研究予算の金銭的な協力もあって本科5年生の頃から毎年数件参加させていただいていました。本科5年生および専攻科1年生の頃は、コロナの感染状況が芳しくなく、オンライン発表ばかりでした。専攻科2年に上がると、コロナの感染対策をしっかりされたうえで現地参加できるようになりました。研究活動3年目にして初めて対面での発表に少し緊張し、思ったように発表できなかったこともありました。学会発表の良さは、他大学・他高専の発表を聞くことや聴講者からの質問・アドバイスを受けて発表の技術を上げられることでもあります。視野を広げることができることもありますが、私自身、質問に答えられなくて自分の勉強不足を痛感したことが何度もあり、そのたびに悔しい思いをしました。その分、頑張りを認められて賞をいただいたときはとてもうれしかったです。観光は、学会発表を頑張ったものだけの特権と考えて全力で楽しみました。横浜のみなとみらい・中華街、浅草の雷門、奈良の大仏、福岡の小倉・・・専攻科2年生の1年間だけでもいろいろなところへ行かせていただきました。

専攻科での2年間は、本科以上に濃くて楽しい、充実した毎日を過ごすことができました。これからは、7年間の高専生活で培った知識・力で社会に貢献し、自分らしく生きていきたいです。最後に、世間知らずで優柔不断で、まだまだ未熟な私を支えてくださった先生方、友人、研究室メンバーには感謝しかありません。本当にありがとうございました。



# 全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

## シングル部門

### 電気情報工学科4年 山田歩佑

私は、全国高専英語プレゼンテーションコンテストにシングル部門で参加しました。タイトルは「The Wonder of the Abacus」で、近年の教育におけるそろばんの重要性などを様々な視点から説明するというプレゼンを行い、3位に入賞する事ができました。とても良い結果を残す事ができたと思います。

練習の際には原稿の細かい構成について何度も確認して、どのような表現をすれば自分が本当に伝えたいことがプレゼンを見る方達に伝わるかを

考えていきました。

他にもプレゼンテーションをわかりやすくする上では必須のアイコンタクトやハンドジェスチャーなどもたくさんの時間をかけて練習しました。

今回、このような結果を得られたのは今大会で唯一の予選大会である近畿地区予選で貴重なプレゼン力を成長させる機会があったからだと感じています。

この大会を通して他の参加者が何を伝えたいのか。そして参加者全員のこの大会への意気込みなど、たくさん感心するようなことばかりでした。



## チーム部門

知能機械工学科4年 瀧川悠羽  
 知能機械工学科4年 津村百香  
 電気情報工学科4年 岸華音

私たちは、1月に行われた全国高専英語プレゼンテーションコンテストのチーム部門に出場しました。「Electric Vehicles and Minicars」というテーマで、電気自動車の問題点を軽自動車で解決するプレゼンテーションを行ったところ、おかげさまで特別賞（日本能率協会会長賞）を頂くことが出来ました。全員が初出場でしたが、この1年間の努力を重ねたことで良い結果が残せ、また素晴らしい経験ができたことを非常に嬉しく思います。改めて、熱心にご指導いただいた先生方から感謝申し上げます。

練習を行ううえで最も力を入れたことは、ネイティブで自然な発音を身につけることでした。最初は拙い「カタカナイングリッシュ」で、練習用の資料がメモで真っ黒になるくらいでしたが、大会直前にはなんとか、滑らかな発音が出来ようになりました。それは、週1回のミーティングに

加え、長期休みや大会直前、それ以外の時間にも先生方に指導していただいたからだと思います。自主練習を含め、怠らなくたくさん練習を積むことで、万全な準備をして大会に臨むことが出来ました。

また、オーディエンスの目を引くようなパフォーマンスをすることにも気をつけました。笑顔、アイコンタクト、ジェスチャーなど、練習するたびに難しさを実感しました。それでも対面で、つまり審査員とオーディエンスを前にパフォーマンスした近畿地区予選では、講評の際に審査員の方々から、素晴らしいチームワークだったと評価していただきました。きっとそれが自信となり、全国大会でのミスすることなく落ち着いたパフォーマンスに繋がったのだと感じています。

今後、仕事や研究などでプレゼンテーションをする機会が更に増えていくと思います。その時には、失敗を恐れず新しいことにチャレンジし、この1年間で培ったスキルと共により良いパフォーマンスを作り上げていきたいです。また、今回の発表が、英語のプレゼンテーションコンテストに出てみたいと考えている人に挑戦する勇氣を与える存在になればと心から願っています。

# 全国高等専門学校ロボットコンテスト

## 全国大会を終えて

知能機械工学科 2年  
脇 悠斗

2年知能機械工学科の脇です。昨年度のロボコンでは「とば〜す君」の制御系を担当し、全国大会ベスト4、そして技術賞を獲得しました。

突然ですが皆さんは今年度のロボコン全国大会をご覧いただけましたでしょうか。今年度の課題は紙飛行機を円形のテーブルの上や細い筒の中に入れるという、人にも難しいことをロボットにさせる過去のロボコンでも類を見ないほど難しい課題です。

「こんなに難しい課題ならロボット本体だけでなく積んでいるセンサーや制御系もさぞかし複雑な物になっているんだろう」と考える人もいるかもしれませんが。しかし「とば〜す君」の実態はセンサーをほぼ使わず人の目で合わせて射出するという、練習量と射出の精度で勝負する自動化の自の字もないロボットなのです。

実際、優勝した奈良高専はロボットに積んでいるパソコンで射出角度を少しずつ調整するなど高度な技術を搭載しています。

なぜ「とば〜す君」にセンサー類を積まなかったのかですが、これは単純に自分の知識と技術力不足です。自分たちの作戦では基本的に動けるゾーンの角から射出するので射出ローラーの回転速度と射角、方向はおのずと定まります。今回の「とば〜す君」ではローラーの回転速度は概ね一定にできていました。しかし、射角と方向を自動化しようとするると遅くなりさらにばらつきも出てしまうので最終的に人の目で見て合わせたほうが早くなってしまうということでセンサー類をあきらめる運びとなりました。

しかし、センサー類をあきらめてしまったことで得点を取る初速が遅くなり全国の準決勝では妨害に回るまでに必要な最低ラインの得点を取る前にVゴールを決められてしまいました。

ここで何を言ってもたらればになってしまうのですがやはり自動で角度を制御できなかったために機体の性能を最大限に引き出せなかったのがとても心残りです。

なので、来年度のロボコンでは悔いの残らないようにオフシーズン中に知識や技術を蓄えて来年度のロボコンに挑みたいと思います。



## 柑紀寮より

寮務主事補

村山 暢

平素より柑紀寮の運営にご理解ご協力をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。10月以降に行われました主な行事についてご紹介します。

### 後期指導寮生任命式

10月11日（火）に2022年度後期指導寮生任命式を実施しました。

任命式では、北風校長より、高学年寮生から選ばれた指導寮生・副指導寮生へ任命書が手渡されました。その後、前期に引き続き任命を受けた指導寮生委員長の電気情報工学科5年生の貝塚祐月君から挨拶がありました。

任命式の後に例年行われている研修会の代わりとして、芥河晋 寮務主事補と中出明人寮務委員から講話がありました。芥河主事補からは「前期の経験を活かしつつ、各々新たな課題を見つけ、新たな気持ちで課題に取り組んでもらいたい」と激励が、中出委員からは「高い意識をもって仕事に取り組んでもらいたい」と心構えに関するコメントがありました。



### 火災を想定した避難訓練を実施

10月13日（木）に今年度2回目の避難訓練を実施しました。

今回の避難訓練は、午後7時00分に5号館2階東側の補食室から火災が発生したという想定で実施されました。寮内放送による避難命令後、全寮生は指導寮生・副指導寮生に誘導されながら避難場所に指定された本校メディアセンター棟前に非常用持出袋を持って避難しました。その後、指導寮生・副指導寮生による点呼が行われ、全寮生の安否が確認されました。

本避難訓練の最後には、避難訓練実施担当の中出明人 寮務委員より講評がなされました。「全体的にスムーズに行動できており、良い訓練であった。特に指導寮生の働きが素晴らしいと感じた。実際の災害時には指導寮生が居ない状態で避難が必要になるかもしれない。そのような場合でも訓練を思い出して行動して欲しい。」とコメントがありました。



「ウェルカミングパーティー 2022」を開催

11月12日（土）に、新入生歓迎イベント「ウェルカミングパーティー 2022」を開催しました。

「ウェルカミングパーティー」は新入生との親睦を深める目的で例年4月中旬に行っていますが、今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響により年度の早い時期での実施ができませんでした。そのため、指導寮生委員会（委員長：貝塚祐月）が中心となって午前中のバレーボール大会とその後の昼食会を企画し、11月12日（土）に実施する運びとなりました。

バレーボール大会では、指導寮生をチームリー

ダーとした“1年生と指導寮生の混合チーム”が予選リーグと決勝トーナメントを戦い、最強チームの座を争いました。熱戦の末、見事優勝したのは3年生の副指導寮生とクラス混合の1年生からなるチームの「青森田中」でした。大会終了後には、寮食堂にてローストビーフ丼を主食とするいつもより豪華な特別食が振舞われました。



### 3年ぶりの「寮祭」を開催

11月12日（土）～11月13日（日）の二日間にかけて寮祭（寮生会、小橋美優 寮生会長）を開催しました。寮祭は寮生会が中心となって実施する学寮最大のイベントでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2019年度の実施を最後に開催できておりませんでした。寮祭を再開させるべく、まず今年は内容をバレーボール大会と富くじ抽選会の二つに絞った、規模を大幅に縮小する形で3年ぶりに開催しました。

バレーボール大会には、学年・学科を超えた寮生有志の17チームが参加し、11月12日（土）に予選リーグ戦、11月13日（日）に決勝トーナメント戦が行われました。予選、決勝ともに白熱した試合が続けられ、見事優勝したのは3年生以上の高学年で構成されたチームの「坂下、大エースになる」でした。

富くじ抽選会は、バレーボール大会終了後から多数の寮生を対象に、三密を避けるため屋外で実施する予定でしたが、雨天であったため、予定の変更を余儀なくされました。各号館の指導寮生の協力の下、学寮の自室で待機している寮生に富くじを配布したところでこの日の日程が終了となり、抽選結果の開示と景品の引き換えは後日開催されました。



# 令和4年度 進路状況

## 令和4年度求人状況

令和5年3月10日現在

	卒業 予定者	進学者	就職者 (A)	公務員	その他	求 人 状 況				
						県内 企業数	県外 企業数	求人企業数 (計)	求人数 (B)	求人倍率 (B/A)
知能機械工学科	42	10	29	0	3	22	793	815	404.54	13.9
電気情報工学科	44	11	30	0	3	22	834	856	452.55	15.1
生物応用化学科	40	16	23	0	1	22	506	528	213.79	9.3
環境都市工学科	37	12	15	9	1	26	587	613	312.49	20.8
メカトロニクス工学専攻	18	2	16	0	0	21	655	676	469.5	29.3
エコシステム工学専攻	15	5	8	2	0	24	633	657	440.5	55.1
計	196	56	121	11	8	137	4008	4145	2293.4	19.0

## 令和4年度 卒業予定者 専攻科修了予定者 進路一覧

令和5年3月10日現在  
( )内は女子数

進路	学 科					計	進路	学 科					計									
	知能機械工学科	電気情報工学科	生物応用化学科	環境都市工学科	メカトロニクス工学専攻			エコシステム工学専攻	知能機械工学科	電気情報工学科	生物応用化学科	環境都市工学科		メカトロニクス工学専攻	エコシステム工学専攻							
[ 企業 ]																						
(株)アイ.エス.ビー		1				1	ダイキン工業(株)	1					1									
アイバル真空	1					1	太平洋工業(株)	1					1									
旭化成(株)	1	1	1	1	1	4	田岡化学工業(株)		1(1)				1									
旭化成メディカル(株)	1					1	匠技研(株)	1					1									
(株)朝日工業社				1	1	1	DIC(株)				1(1)	1	1									
アマゾンジャパン合同会社				1	1	1	東海旅客鉄道(株)			1			1									
(株)網屋	1					1	東京電力ホールディングス(株)			1(1)			1									
出光興産(株)愛知製油所	1					1	東レ(株)	1(1)	1(1)			2	2									
NTTインフラネット(株)			2(1)			2	(株)ドコモCS関西	1					1									
エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)	1					1	凸版印刷(株)	1					1									
(株)NTTデータMSE	1(1)					1	(株)長尾製缶所	1					1									
大阪ガス(株)	2			1		3	西日本高速道路(株)	1(1)		1			2									
大阪油化工業(株)			1(1)			1	西日本電信電話(株)	1	1				2									
花王(株)			1	1		2	西日本旅客鉄道(株)			1			1									
(株)カネカ			1(1)		1	2	日東電工(株)		1(1)	1			2									
関西エアポートテクノロジカルサービス(株)	2	2				4	パナソニックインダストリー(株)	1(1)			1	2	2									
関西電力(株)				1	1	2	パナソニックエナジー(株)	1				1	1									
紀州ファスター工業(株)	1					1	パナソニックエンターテインメントコミュニケーション(株)	2					2									
キヤノンヘルバ(株)	1					1	パナソニックコネクツト(株)	2					2									
キヤノンメディカルシステムズ(株)	1					1	浜松ホトニクス(株)	1					1									
京セラ(株)	1	1				2	阪神高速技術(株)	1		1			1									
キリンビール(株)北海道千歳工場			1			1	阪神高速道路(株)			1			1									
キリンビール(株)岡山工場			1(1)			1	フナナック(株)			1			1									
近畿日本鉄道(株)				1		1	不二製油(株)		2				2									
(株)クボタ	1					1	藤本化学製品(株)		1				1									
クラシエ製薬(株)			1(1)			1	ホンカワミクロン(株)	1					1									
小西化学工業(株)			1(1)			1	マルホ(株)				1(1)	1	1									
(株)駒井ハルテック			1			1	三井化学(株)			1			1									
(株)小松製作所	1					1	三井不動産(株)	1					1									
五洋建設(株)			1(1)			1	三菱ケミカルエンジニアリング(株)			1			1									
(株)サイマックス関西				1(1)		1	三菱地所プロパティマネジメント(株)	1(1)		1			2									
沢井製薬(株)					1(1)	1	三菱電機エンジニアリング(株)			1			1									
サントリースピリッツ(株)			1			1	三菱電機システムサービス(株)	1(1)					1									
サントリープロダクツ(株)	1	1				2	武蔵エンジニアリング(株)		1(1)				1									
(株)CTIウイング					1(1)	1	(株)明治 関西工場			1			1									
JX金属(株)			1			1	(株)メテックフィルダース	1		1			1									
ショーボンド建設(株)				1(1)		1	(株)メンバーズ	1		1			1									
スガイ化学工業(株)					1(1)	1	(株)モビテック	1		1			1									
ススキ(株)	1					1	(株)森永乳業(株)	1		1			1									
(株)SUBARU	1(1)					1	(株)八雲ソフトウェア	1		1			1									
スマートホールディングス(株)			1			1	(株)ヤクルト	1		1			1									
住友化学(株)大阪工場			1			1	雪印メグミルク(株)		1				1									
住友電気工業(株)				1		1	リコージャパン(株)	1		1			2									
金星薬品工業(株)			1(1)			1	(株)Link-U	1		1			2									
ソフトバンク(株)			1			1	(株)レゾナック		1				1									
大栄環境(株)				1(1)		1	(株)Relic			1			1									
Daigasエナジー(株)	1					1	レンゴウ(株)	1					1									
(株)大気社				1		1	ワムシステムデザイン(株)	1		1			1									
小 計	15	13	12	9	8	62	小 計	14	17	11	6	8	3	59	合 計	42	44	40	37	18	15	196



## 令和5年度行事計画 (4月から9月)

### 4月 APRIL

5(水)	入学式・入寮式(開寮)
6(木)	始業式・健康診断
28(金)	閉寮
	救急救命講習会
	指導寮生任命式・研修会
	寮生避難訓練
	ウェルカミングパーティー

### 5月 MAY

7(日)	閉寮
11(木)	学生総会
12(金)~19(金)	授業参観期間(本科)
13(土)	専攻科推薦入試・専攻科社会人入試
26(金)	校内体育大会
27(土)	専攻科学力入試(午前登校禁止)
	近畿地区高専体育大会(硬式野球)

### 6月 JUNE

12(月)~19(月)	前期中間試験(本科)
	高校総体
	近畿地区高専体育大会

### 7月 JULY

27(木)~	前期期末試験(本科)
	近畿地区高専体育大会(本校担当 バドミントン・バレーボール)

### 8月 AUGUST

~1(火)	前期期末試験(本科)
2(水)	本科編入学試験(登校禁止)
3(木)~4(金)	前期期末試験(専攻科)
5(土)	ガールズKOSENステイ
9(水)	閉寮
10(木)~	本科夏季休業
11(金)	オープンキャンパス
	全国高専体育大会

### 9月 SEPTEMBER

夏季休業

編集：和歌山工業高等専門学校  
環境都市工学科 櫻井祥之  
発行：和歌山工業高等専門学校  
和歌山県御坊市名田町野島 77 番地  
電話 0738-29-8243 (学生課学生係)

